

質の高い教師の確保のための教職の魅力向上に向けた環境
の在り方等に関する調査研究会（第2回）

令和5年1月16日

新たな教員の勤務環境の在り方 に関する論点整理について

岡山県教育委員会

教育長 鍵本 芳明

1 はじめに

○ **岡山県の人口 約186万人**（R4.12.1現在） **15市10町2村**

内 政令指定都市 岡山市 約72万人

中核市 倉敷市 約47万人



○ **岡山県の学校数**

小学校	2 8 5 校	（岡山市立以外の公立 休校を除く）
中学校	1 1 4 校	（岡山市立以外の公立 休校を除く）
中等教育学校	1 校	（県立）
高等学校	5 1 校	（県立）
特別支援学校	1 4 校	（県立）

① 給特法が制定された当時と教員の現在の勤務状況は大きく異なる

岡山県の現状（令和4年6月の月当たり時間外在校等時間）

小学校 49.6時間 中学校 61.0時間 高等学校 53.9時間 特別支援学校 30.2時間

⇒ 現状を踏まえ、給与面で何らかの見直しは必要

② 教員採用試験の倍率低下が大きな課題

教育現場の忙しさを理由に教職をあきらめる学生がいる

⇒ 教員業務の明確化・適正化、教職員体制の充実が必要

3 現状を踏まえた給与面の検討事項①

○ 教員の職務の特殊性

勤務時間の内外に切り分けることができるのか検討が必要

○ 教職調整額変更の場合の検討事項

- ・ 現状をもとに変更した場合、**過重な業務負担を容認することにならないか**
検討が必要
- ・ 個々の教員で勤務の状況が異なる中で、**国民からの理解が得られるか**検討
が必要

○ 時間外勤務手当化の場合の検討事項

- ・ 現在の学校現場の体制で、**時間外勤務命令やその管理が可能か検討が必要**
- ・ 地域による格差を生まないための県費負担教職員制度の中で、**服務監督権者の時間外勤務の考え方の違いにより給与面の差が生じないか検討が必要**
- ・ 効率的に仕事を進め、**時間外勤務をしない教員ほど給与が少なくなることへの理解が得られるか検討が必要**
- ・ 「**超勤4項目**」をどう整理するか**検討が必要**

○ 職位や職務の負荷に応じた処遇の改善

- ・ 課題が複雑化する学校にあって、多様な教職員集団を抱え、**組織的・機動的なマネジメント**が求められる**管理職**について、**職位に応じた適切な処遇の検討**が必要
- ・ 学校組織**マネジメント**の一部を担う**主幹教諭**や**指導教諭**等の果たす役割と**処遇の検討**が必要
- ・ 学校における**職務の負荷**に応じた**手当等**による**処遇の検討**が必要

○ 業務の明確化・適正化

働き方改革は進んでいるが、市町村間・学校間で格差がある

- ・ 学校や教員が担う業務をさらに明確化し適正化を図る方策の検討が必要
- ・ 市町村や学校ごとに取組状況を自己点検し、やるべきことが明確化できるようにする仕組みの検討が必要（ICT技術の活用も含める）
- ・ 教員業務の支援スタッフの配置の効果は大きいですが、さらに**効率的・効果的に活用するための方策の検討**が必要

○ 教職員体制の充実

教員が余裕をもって職務に当たるためには、教職員定数の改善・充実の検討が必要

- ・ **対応する児童生徒数の検討**が必要（中学校35人学級、通級指導教室等）
- ・ 少子化や不登校への対応など**多様な課題に対応できるように柔軟な教職員配置の検討**が必要（ICTによる遠隔授業、不登校対応のための別室指導等）
- ・ 学校が支援スタッフも含めて多様な人々で構成される組織になる中、**管理職や主幹教諭等を含めた組織的・機動的なマネジメント体制の検討**が必要

○ 優秀な人材を確保する方策

教員に多様で優秀な人材を取り込みやすい仕組みの検討が必要

○ 教えるべき内容の検討

児童生徒や教員の負担も考慮した教育課程の在り方についても

検討が必要